

感染症に気をつけよう！

平成 24 年 9 月 3 日



横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
風しん	◎ →	6 月下旬から報告が増え、すでに昨年 1 年間の約 4 倍になっています。特に成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ 先天性風しん症候群 を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大切です。詳しくは 感染症臨時情報 をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	● →	全国的に流行しています。市内でもやや報告が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。
ヘルパンギーナ	▲ ↘	7 月下旬に報告のピークがみられてからは、減少が続いています。今季の流行は、ほぼ終わったようです。

◎ 流行 ● やや流行 ▲ 散発 やや増加 ↗ 横ばい → 減少 ↘

今、気をつけたい感染症

[麻しん\(はしか\)](#) ← [風しん](#)と同時に免疫をつけましょう！

現在、風しんが流行していますが、同じく発しん・発熱を示す感染症に麻しんがあります。一般的に風しんより重症で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染するとほぼ 100% 発症します。約 10～12 日の潜伏期の後、熱やせき、鼻水などの症状が出ます。数日すると、38℃以上の高熱と、全身に発しんが現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わることもあります。

特別な治療法はありませんが、流行している風しんと同時に、予防接種で防ぐことが可能です。次の方は定期予防接種として、[麻しん・風しん混合\(MR\)ワクチン](#)を無料で接種できます。このワクチンは麻しんと風しん両方に効果があります。

- ◆ 第 1 期 → 1 歳以上 2 歳未満
- ◆ 第 2 期 → 5 歳から 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間
- ◆ 第 3 期および第 4 期 → 中学 1 年生相当と高校 3 年生相当
(国が定めた「麻しん排除計画」に基づき、平成 25 年 3 月までに限ります。)
- ◆ これら以外の方で、麻しん、風しんの予防接種を一度も受けていない方や接種歴が不明な方は、自費での接種が可能です。



この資料は、8 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは[委員会報告](#)をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。啓発用に[パンフレット](#)も作成しています。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

